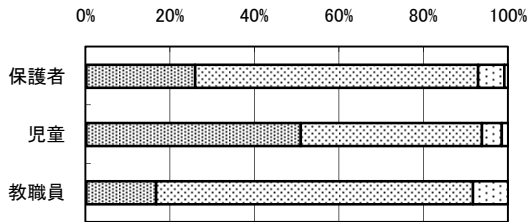


■ 4-そう思う □ 3-どちらかといえば、そう思う □ 2-どちらかといえば、そう思わない □ 1-そう思わない

学校教育目標

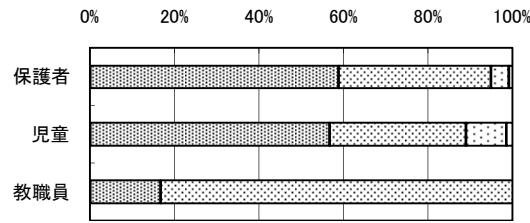
1 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



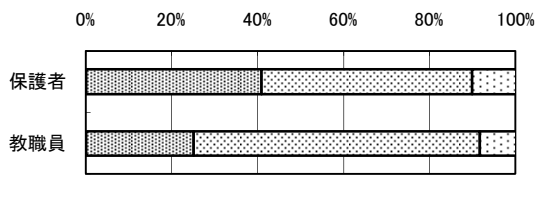
2 意欲的な学校生活

子どもは、楽しい学校生活が送れていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

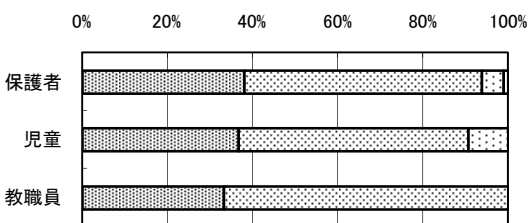


【学校から】教育方針や教育目標の理解について、昨年度に比べると教職員の評価が下がっている。保護者には学校便りやPTA総会等で啓発を行っているが、学級担任として教育方針や教育目標を理解し、学級通信や学級懇談会等で、児童や保護者に分かりやすく示していなかったという反省であると考えられる。学校生活を保護者・児童は概ね楽しいと感じているが、教職員は生活面や学習面の支援状況を考慮すると、一部の児童は楽しいと感じていないのではないかと判断し、4の割合は少なくなっている。連携協力体制について、教職員の3・4の割合は変わらないが、これからも共通理解・共通実践することの大切さを様々な事例をもとに伝えていく必要がある。

教科指導

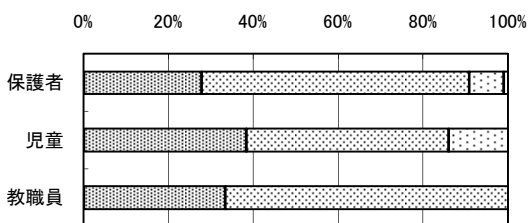
4 授業づくりの工夫

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

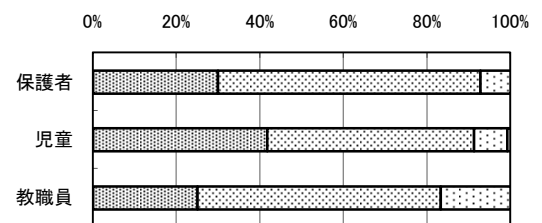
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



総合的な学習の時間

6 総合的な学習の時間の充実

子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。



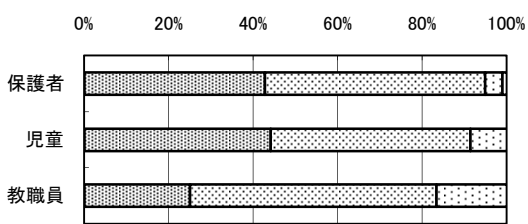
【学校から】全員、研究授業を行い、思考力・判断力・表現力を高める研究をとおして、授業改善に取り組んだ。特に本年度は講師の先生方に多くの指導助言を頂き、授業力向上を図ることが出来た。このことが授業づくりの工夫における保護者の評価、意欲的な学習態度における評価の向上につながっていると考えられる。

【学校から】保護者、児童ともに4・3の割合は9割を超える。児童の関心・意欲を高め、探求的な学習過程となるように単元計画を見直していきたい。

道徳教育 心の教育

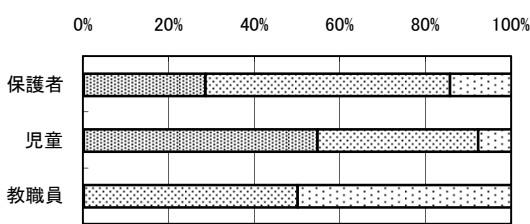
7 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にしている心の教育の充実に努めていると思いますか。



8 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。

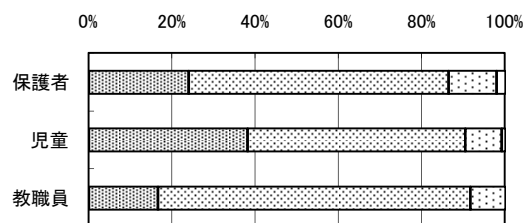


【学校から】委員会活動、クラブ活動、縦割り班活動を通して、上級生がリーダー性を発揮する場を設けることで、低学年に対する思いやりの心が培われている。しかし、教職員の評価が低いのは、もっと道徳的な実践力をつけなければならないという意識の表れであると考えられる。あいさつについては、教職員の評価が3と2に分かれている。どのようなあいさつを指導していくのかを共通理解し、教職員が率先して挨拶する、礼儀正しくする姿を示すことが大切である。また、日頃から、友達の呼び方、受け答え方等、言葉づかいを意識させていくこと、家庭や地域でもあいさつが当たり前になるように働きかけていくことが大事である。

人権教育

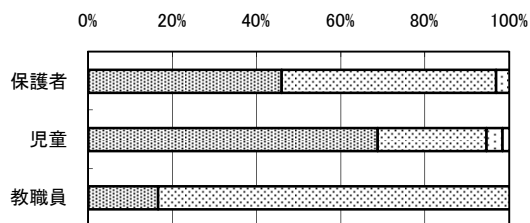
9 一人一人の生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしている指導や対応ができていると思いますか。



10 友だちへの思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。

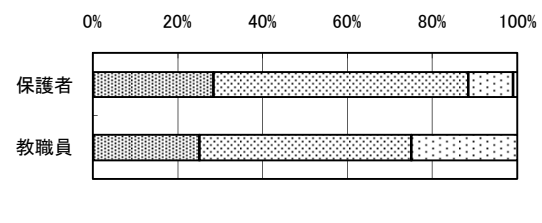


【学校から】一人一人の子どもを大切にしている指導や対応ができていると評価されるためには、教職員の人権意識の高揚を図ることが大切である。そのために「やさしいほほえみ やさしい声かけ やさしいまなざし」を心がけなければならない。学期に1度の人権週間を設定し人権教育の充実に努めているが、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来るよう指導していかなければならない。

特別支援教育

11 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

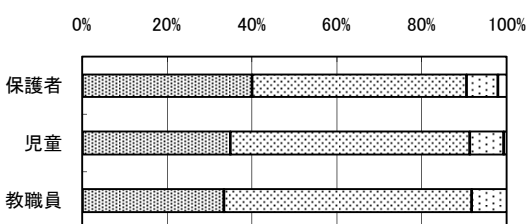


【学校から】一人一人の児童を大切にしている支援体制づくりに努めていることは、保護者の理解をいただいていると考える。さらに理解を深め、どのような実践を行っていくかを検討し、個人の教育的ニーズに応えていきたい。

生徒指導 教育相談

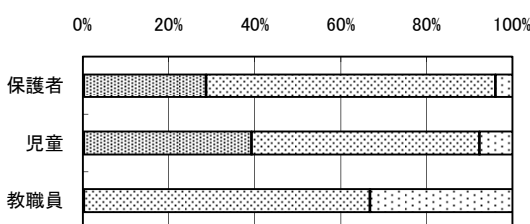
12 生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。



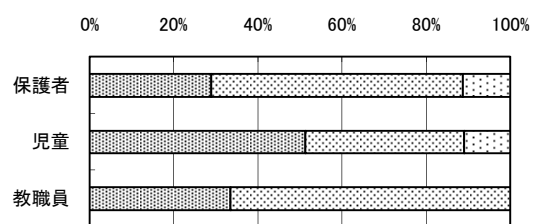
13 規範意識

子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。



14 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

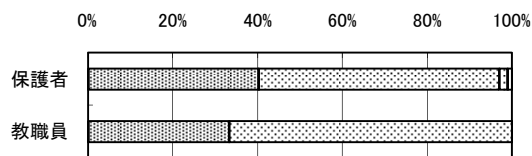


【学校から】学級通信や懇談会等の場で児童のよさを伝えてきたことが保護者からの高い評価となっている。今後も児童理解に努め家庭にしっかり伝えていきたい。規範意識については教職員と児童・保護者に認識の差が見られる。めざす姿を児童に具体的に伝え、実践化を図らなければならない。教育相談やいじめアンケート等を通して、いじめや児童の悩みを把握し解決を図ってきたが、対応が十分でないという回答もある。日頃から児童の実態把握に努め、積極的な生徒指導に取り組んでいきたい。教職員が子どもに寄り添い、さらに保護者と連携を図りながら、素早く適切な対応を行うことを大切にしたい。

健康教育 安全

15 安全と事故防止

学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。

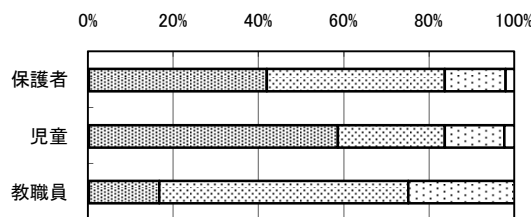


【学校から】「自分のいのちは自分で守る」ということを意識させ、そのために何をしなければならないかを、不審者、地震、火事の避難訓練をとおして考えさせていくことが大切である。また、生活の中で危険な場所や危険な行動を知らせるなど、事故を防止する働きかけも必要である。防犯ブザーの全員着用、登校時の指導など徹底していきたい。

青空活動など体育の授業以外での頑張りが見られる。しかし、運動の二極化が見られ、中休み、昼休み、放課後等、外遊びの働きかけが必要である。

16 体力向上

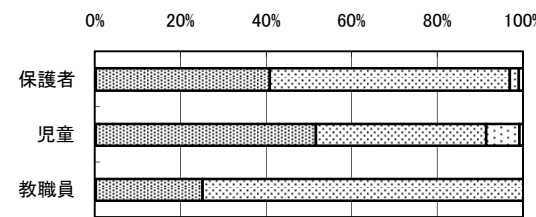
子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。



学校行事

17 学校行事への参加と工夫

学校では、運動会や学習発表会などの学校行事が工夫されていると思いますか。

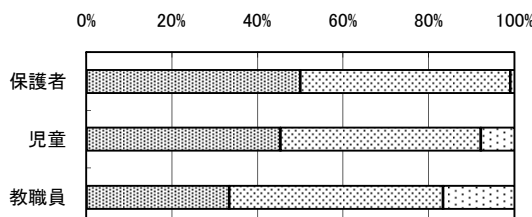


【学校から】年度当初の行事予定の配布、各行事1ヶ月前の案内文書配布など、保護者に向けて来校を促した。また、行事の目的、内容、実施曜日、時間帯等の検討を行い、工夫しながら実施してきた。今後、保護者の感想や要望を参考に、さらに工夫をしていきたい。

学校環境

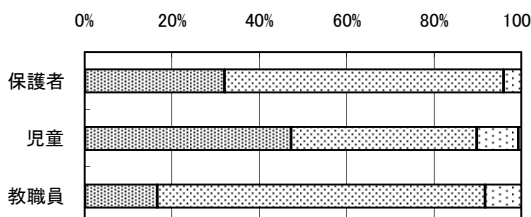
18 環境の整理・美化

学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。



19 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。



【学校から】緑化担当を中心に花壇やプランターを整備している。種から育てた花々が季節を彩り、野菜を給食で食すことにより、育てる意欲も高まり、自主的に環境を整える気持ちも表れてきている。

掲示板や壁面を利用した楽しく学べる掲示も児童の学習意欲を高めている。

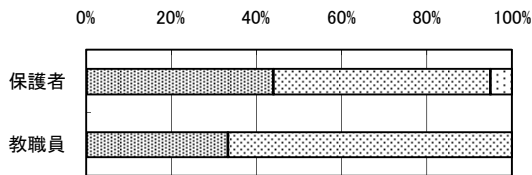
掃除の時間の音楽を止め、静かな環境にしたことで、無言掃除ができる児童が増えてきた。

校舎の老朽化の問題もあるが、毎月の安全点検を確実にし、速やかな整備・改修に努めている。

情報の公開・発信

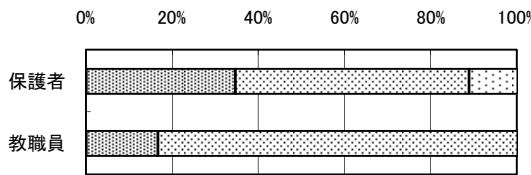
20 学校の予定等がわかる情報発信

学校からの文書等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。



21 教育活動への参加

学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。



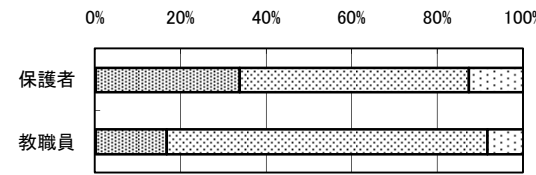
【学校から】ホームページ、安心メール、学校だより、学級通信、通知文等をとおして、学校の最新情報の発信に努めている。保護者、教職員の評価が昨年度よりも低下しているのは、ホームページ更新の情報やプリント等が届いていないことに問題があると考え。今後、どのような情報を発信するべきか再考し、確実な情報伝達の方法を探していきたい。

教育活動への参加を促すために、1ヶ月前のお知らせだけでなく、内容面（見どころ等）をアピールするプリントを工夫していきたい。

家庭・地域との連携

22 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

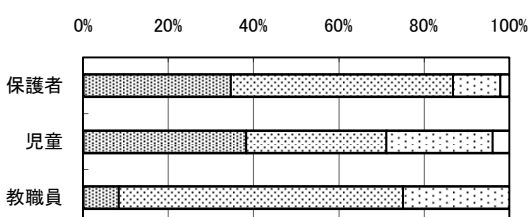


【学校から】学校保健委員会（すこやかサミット）や総合的な学習の時間は、保護者だけでなく地域の方を招いて実施するなど協力体制が出来ているが、年々保護者の参加が少なくなっている。ゲストティーチャーや学校支援ボランティアなどの活用を工夫し、連携を深めていく。

(学校独自)

23 基本的生活習慣

子どもは、「早寝、早起き、朝ごはん」ができていますか。

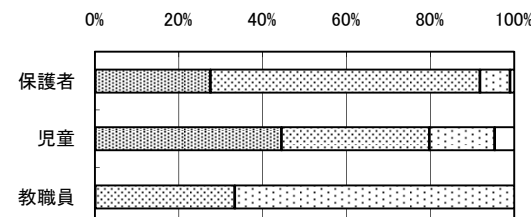


【学校から】昨年度に比べて、4・3の割合が増えている。基本的な生活習慣の定着を目指して、全学級で指導と保護者啓発にあたった成果が表れているといえる。今後も、家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に努めていかなければならない。

(学校独自)

24 地域との連携

子どもは、地域の行事（盆踊り大会、清掃活動、どんどやなど）に積極的に参加をしていると思いますか。

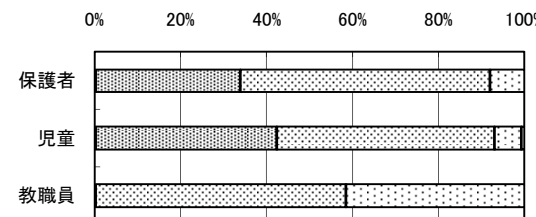


【学校から】地域の行事に参加する児童や保護者が少ないという教職員からの意見で、本年度からこの評価項目を設定した。一部の児童を除いて、準備や片付けといった活動に積極的ではないという教職員の思いが表れている。保護者の意識を学級通信等で啓発していきたい。

(学校独自)

25 責任意識

子どもは、自分の仕事を責任をもってやっていると思いますか。



【学校から】昨年度と比べると、教職員の評価が下がっている。保護者は家族のために、教職員は他の人のために責任をもって活動しているかという視点の違いが差となって表れていると考える。学校では係活動や当番活動、委員会活動等の目的を理解させ、いろいろな機会をとらえて責任を果たす大切さを教えていく必要がある。

来年度の具体的な取り組みについて

- 教育目標や教育方針を教職員一人一人が理解し、常に意識しながら実践していく教職員集団をつくっていく。そして、それぞれの学級、担当校務分掌で、目標達成のための手立てを考え、達成状況を学期ごとに確認していく。
- 教職員の児童を理解する能力、保護者に寄り添うことのできる能力を高めるために、「人に優しい生き方の教育 やさしいほほえみ やさしい声かけ やさしいまなざし」の徹底を図る。それを基にして、児童・保護者の信頼関係を深め、いじめやいろいろな課題の早期発見・早期解決、積極的な防止対策に努める。
- 特別な支援を要する児童に対する取組を全職員が理解し、最良な支援体制を築いていく。学期ごとに支援体制の反省を行い、必要なところに必要な支援を行うことが出来るようにしていく。
- 学校からの情報発信については、保護者や地域のニーズに応じた内容を検討していく必要がある。毎月更新している学校ホームページは、学校生活を分かりやすく掲載しているが、もっとアクセスしてもらえるように啓発していく必要がある。
- 保護者、児童と教職員の評価の差が大きかった項目（意欲的な学校生活、あいさつ、礼儀の励行、規範意識、体力向上、地域との連携）については、具体的な目指す姿を示し、学校だより・学級通信等で取組や現状を発信していきたい。

学校関係者評価

- 教育方針・目標の理解については、学校の取組や啓発に対する努力・効果が伺える。
- インフルエンザによる学級閉鎖等もなく、行事なども計画どおりできたので安心した。
- 教職員と保護者・児童の評価がほぼ一致する評価項目は、課題があっても解決に向けて同一歩調で進むことが出来るが、そうでない項目については、教職員の共通理解と共通実践、保護者への説明・情報提供・啓発に一層努力を要する。心の教育の充実については、人間関係、学力、家庭環境等を踏まえて、一人一人の児童にきめ細やかな対応をしていくことが今後益々必要と感ずる。
- 生徒指導面では、民生員・児童員等に協力を願うなど、地域で育てる体制づくりと地域とのつながりを深めていく工夫が必要である。また、朝のあいさつなどは、上級生からの教えといった縦のつながりを大切に、自然に身に付くようにしていくことも必要である。
- 家庭環境や保護者の考えの違いが顕著になり、課題を解決するには一層の細やかな連携が必要であるが、まずは、親が子どもの教育に関心をもつことが大切である。そして先生方には、ベストを尽くしていただくしかないのではないか。
- 今後ともさらにアンテナを高くして対応していくという学校を支援していきたい。担任、保護者、地域等が連携して、子どもの様子や情報を交換し、適切な対応をしていくことが大切である。